



〈雑録〉英吉利ノ過去, 現在及ビ將來(4)

大西, 猪之介

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 8(4):665-687

(Issue Date)

1910-04

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051547>



英吉利ノ過去現在及 將來

(其四)

高商專攻部

大西猪之介

三

チエンパーレンノ特惠關稅制度論ニ駭然トシ

テ色ヲ失シタル英國ノ朝野ハバルフオーアノ宣言ヲ得テ愈々混亂ヲ重ネ、甲論乙駁異論百出、喧々囂々其靜マル可キ時ヲ知ラズ、政界亦頻リニ動イテ形勢頗ル切迫セリ、果斷ナルチエンバレーンハ『南阿戰費支辨ノ目的ヲ以テ新設セラレタル「クオートー」一志ノ穀物輸入稅ヲ存續シ、獨リ殖民地ニ是ヲ免除センニハ更ニ英國品ニ對シ大ナル特惠ヲ與ヘン』トノ加奈陀ノ請求ヲ容レ、一舉ニシテ素志ヲ貫徹センコトヲ欲セルモ西園寺內閣ノ坂谷藏相ヨリモ政治的良心ニ富ム時ノ大藏大臣リツチーハ頑トシテ戰時稅ヲ變ジテ永久稅トナスヲ肯ンゼズ。即チ老軀ニ鞭ツテ南船北馬、熱烈ノ辯以テ民衆ヲ説ク可ク、高邁ノ見以テ輿論ヲ導ク可キヲ信ゼルチエンバレーンハ一九〇三年九月十八日先ヅ冠ヲ掛ケテ野ニ退キ、自由貿易主義ヲ奉ジテ變ルヲ欲セザルリツチー、ハミルトンノ徒亦議首相バルフオーアト合ハズシテ臺閣ヲ退キ、九月十六日ノ閣議ニ

於テハ自由貿易主義ヲ固執シ乍ラ內閣ニ止ツテ其改造ニ協力センコトヲ約セシ樞密院議長デヴオンジャイヤー公モ十月ニ入ツテ辭意ヲ通ジ、更ニ多年チエンバレーント去就ヲ共ニセシ統一黨内ノ一派スラ叛旗ヲ翻シテ、自由貿易統一派Unionist Free Tradersトナリス。事茲ニ及ンデ、サシモニ永ク榮華ヲ極メタル保守黨內閣ノ基礎漸クニシテ搖ギ、十月五日ヨリ十六日ニ涉リテ內閣ノ改造成リ、能ク二年ノ命脈ヲ持セリト雖モ、數回ノ補缺選舉ハ絶エズ其失勢ヲ示セルヲ以テ、一九〇五年十二月四日下院ニ絶對的過半數ヲ有シ乍ラ、先例ヲ打破シテ總辭職ヲナスノ止ムヲ得ザルニ至レリ。後六日ヲ經テ、十年ノ苦節ヲ忍ビシ自由黨朝ニ立チ、翌年一月議會ヲ解散シテ行ヘル總選舉ハ實ニ一八三二年來ノ大多數ヲ以テ自由黨ノ萬歲ヲ報ゼリ(註二)

註一 其ノ數左ノ如シ

解散前

總選舉

保守黨

三二一 三六九

一二九 一五七

統一黨

五八

二八

自由黨

二一八 三〇〇

三九九 五二二

國民黨

八二

八三

労働黨

一

三〇

議長

一

一

合計

六七〇

六七〇

然リ、保守黨ハ一敗地ニ塗レバルフオーアサヘ落選シ、アルダン、ギブス氏ノ好意的辭任ニ依ル補缺選舉ノ結果初メテ倫敦ヨリ出デ得タルノ慘狀ニ陷レリト雖モ、靜ニ兩黨ノ得票ヲ檢スレバ(註二)必ズシモ大ニ悲觀スベキニアラザルナリ。

註二 一九〇六年ノ總投票數七、二六六、七〇八票内無效ノ分ヲ除キ、保守黨ノ得票二、五二八、五九八票自由黨ノ得票四、〇二六、七〇四票也。今モシ得票數ヲ以テ議席ヲ分配セバ前者ハ二五八人後者ハ四二二人トナリ其差一五四人タルベキナルニ、實際ノ數ハ前者一五八ニ對シ後者五一ニ示シ、三五四人ノ多數ヲ生ズ。コレ一ニ前者ノ根據地タル市部ハ後者ノ根據地タル郡部ニ比シ選舉有權

者ニ對スル議員選出數ノ少キニ歸ス。

殊ニ世界ノ形勢ハ刻一刻英國國民ヲ壓シテ到底永ク自由黨政府ニ謳歌スルヲ許サズ、輿論ハ漸ク保護貿易主義ニ贊意ヲ表シテ一九〇八年以來南風競ハズ、補缺選舉ハ頻々帝國主義者關稅改革派ノ勝利ヲ告ゲ政府黨ノ多數ハ一九〇八年末ニ於テ減ジテ三三九人トナルニ至レリ。近ク二三ノ事例ヲ求メンカ、一九〇七年五月十六日關稅改革問題ヲ旗幟トシテ爭ヒタルチャプリン氏ガ「安價ノ食料」ヲ叫ビシラツセル氏ノ三千票ニ對シ一萬票ヲ得テ當選シタル、是レ一ナリ。翌年二月九日倫敦電報ガ二週間ニ跨ツテ執行セラレタル三名ノ補缺選舉ガ全然關稅改革派ノ勝利ニ歸セルヲ傳ヘタル、是レ一ナリ(註三)四月ニ入ツテ自由黨内閣商務局長ウィンスーン、チャールガマンチエスターニ於テ四百二十九票ノ差ヲ以テ落選シタル、是レ三ナリ。(註四)昨年五月ストラットフォード、オン、アボンニ統一派ガ絶

對的勝利ヲ得タル、是レ四ナリ。(註五) 其他一九〇六年七月倫敦ニ開カレタル英帝國商業會議所聯合大會ガ三十五ニ對スル百〇七ノ多數ヲ以テ相互の特惠關稅贊成決議案ヲ可決セシガ如キ一九〇六年迄關稅改革ニ對シ嚴正中立ノ態度ヲ持セシ倫敦商業會議所ガ翻然之ヲ改メ四百七十二ニ對スル千七十七ノ多數ヲ以テ贊意ヲ表スルニ至レルガ如キ、又一昨年十月グラスゴー、エディンバラ兩大學總長選舉ノ行ハル、ヤ、前者ニ於テハ前印度太守カーゾン卿ガ大藏大臣ロイド・ジョージ、勞働黨首領ケイ・ハーデーノ兩氏ヲ超エテ當選シ、後者ニ在テハ現グラスゴー大學總長ウ・非ンダム氏ガウ・非ンストン、チャーチル氏ヨリモ百一票ノ多數ヲ以テ當選シ(註六)カクテ共ニ統一派ノ勝利ニ歸シタルガ如キ、皆以テ時代思潮ノ推移ヲ教フルニ足ル。

翻ツテ各殖民地ノ態度如何ヲ見ンカ、吾人ハ更ニ更ニ驚ク可キモノアルヲ見ズンバアラズ。

即チ本國ガ逡巡未ダ決セザルニ先チ、着々保護貿易政策ヲ採ツテ外國ヲ排シ、特惠關稅主義ヲ行フテ母國ト結ビ、互惠主義ニ依ツテ子國ト連ラントスルノ一大潮流ハ滔々トシテ彼等ノ間ヲ橫流セリ。加奈陀ニ然リ、南阿ニ然リ、濠洲ニ然リ、新西蘭ニ然リ。(註七)

註三 四十一年二月十日大阪毎日第二面

註四 四十一年四月二十七日大阪朝日第三面所載二十五日

發「タイムス」特電

註五 四十二年五月八日大阪毎日第二面所載七日發倫敦電

報

註六 四十一年十月二十七日同上第二面所載二十六日倫敦

發電

註七 日本經濟雜誌第四卷第七號所載津村教授「英領諸殖民地ニ於ケル帝國主義的思想ノ勃興」詳細ニ此ノ形勢ヲ叙述シ蛇足ヲ加フ可キ必要ヲ見ズ。參照ヲ要求ス

然レバ一九〇七年四月十五日以後一箇月間英京倫敦ニ開カレタル殖民地會議ニ於テアスキスガ本國政府ノ見解ヲ代表シテ「何レノ殖民地ニ

對シテモ何等特惠の待遇ヲ與ヘンコトヲ望マズ
又自由貿易主義ニ背ク一切ノ舉措ニ反對スル
旨ヲ言明シタルニ拘ラズ、來會各首相ハ印度首
相マツケーヲ除キ、異口同音特惠關稅制度ヲ主
張シ、加奈陀首相ノ如キハ一八九七年來採用セ
ル同制度ノ成功ヲ説キ、然カモ若シ一方的ヨリ
進ンデ雙方的タルニ至ラバ效果益々舉ル可ク、
否、然カスルニアラザレバ到底其永續ヲ期シ難
キヲ述ベテ切ニ本國ニ訴フル處アリ。喜望峯殖
民地首相亦是ニ和スルニ至ツテハ自由黨政府ト
雖モ頑強ニ自由放任ノ政策ヲ固守スル能ハズ。
或ハ母子國間ノ航海ニ從フ汽船會社ニ對スル補
助金下付、蘇西運河通過稅免除ニ依テ運賃ノ低
減ヲ企圖シ、或ハ加奈陀經由濠洲及ビ本國間ノ
通信機關ヲ改善シ、或ハ各殖民地ニ向ケ商業事
務官ヲ増遣シテ通商關係ノ進歩發達ヲ期待スル
等ノ提案ヲ出シタレドモ、小策固ヨリ以テ時代
ノ要求ニ應ジテ充分ナル能ハズ、加奈陀帝國協

會(British Empire League of Canada)ノ如キハ本
國政府ノ處置ヲ緩漫ニ過グルモノト罵リ、列席
各殖民地首相ガ本國ヲ除キ、殖民地ノミヲ以テ
雙方的特惠關稅ヲ實行センコトヲ望ムニ至レリ
内外ノ形勢既ニ此ノ如シ、統一黨大會席上バル
フォーアガ叫ンデ「余ハ最早ヤ特惠關稅制度ノ
採用セラル可キニ付テ何等ノ疑ヲモ挾マズ、唯
疑フ處ハ徒ニ逡巡セバ今日得ラルベキ利益ヲモ
失フニ至ラザル可キヤ否ヤニアリ」トセル、宜
ナリト云フ可シ。

然モ尙ホ自由黨ニシテ、時勢ノ赴ク所英國民
ヲ驅ツテ關稅改革ノ旗下ニ集ラシメントスル氣
運ノ將ニ熟セントセルニ顧ミズ、頑トシテ舊時
ノ政策ヲ套襲センカ、或ハ恐ル、其沒落ノ原因
茲ニ萌サム事ヲ。世論ノ未ダ熟セザルニ關セズ
グラッドストンノ主張セシ愛蘭自治法案ガ齟
タル十年凋落ノ悲史ヲ忘レザル限りハ自由黨タ
ルモノ、宜シク天ノ雨セザルニ牖戸ヲ綢繆スル

ノ細心ナクンハアル可カラズ。

サリ乍ラ自由貿易ノ大策ハ實ニ是レ同黨ノ根幹タル政綱ニシテ、一朝此ノ綱領ヲ抛タンニハ其政治的生命ハ既ニ失ハレタルモノニ外ナラズ保護ニ趨ランカ、政治的良心是ヲ許サルヲ奈何セム、自由ヲ守ランカ、黨勢ノ衰微是ヲ避ケ難キヲ奈何セム。此ノ「チレンマ」ニ立ツ自由黨内閣ノ措置果シテ如何ハ正ニ大ニ刮目ヲ價スルモノ、論ジテ茲ニ至リ、勞働黨ノ懷柔ヲ思ヒ新豫算案ノ主義ヲ窺ハンカ。吾人ハ自ラ微笑ノ禁ズル能ハザルモノアルヲ覺ユ。

知識深ク品性高キ英吉利勞働者階級ガロバート、オーウェン及ビ基督教社會主義ノ主張ニモ贊セズ、オーコンネルノ率ヒタル勞狀黨運動ニモ和セズ、漸進的ニ平和的ニ訓練アリ統一アル職工組合ノ勢力ニ訴ヘテ企業者ト折衝シ巧ニ自家地位ノ上進ヲ希圖シ、遂ニ普魯西嫌惡ノ情厚キルヨブレンタノヲシテ這般職工組合自助ノ精神

ハ國家社會主義的の制度ヲ無用ナラシムト論斷セシメ、引イテ獨逸ノ分裂ヲ早メンノ虞アルヲ理由トシテ強制勞働保險ノ開始ニ反對セシメ(註八)タル所以ノモノハ一ニ全ク自由貿易制度ノ下駁駁タル英國商工業ノ發展ガ利潤ノ増加ヲ生ジ從テ賃銀増加ノ餘裕ヲ存セシニ依ル。故ヲ以テ新進諸工業國ノ出現ニ英國產業ノ根底昔日ノ安固ヲ望ミ難ク、勞働者ノ地位動搖ヲ來スヤ、固ト主義ヨリシテ階級戰爭ヲ避ケタルニアラザル彼等ハ翻然トシテマンチエスター主義ヲ捨テ、資本的經濟組織ヲ離レ、國權ノ干涉保護ノ下ニ生活ヲ保持セントシ、其職工組合ハ社會主義者ト手ヲ握ルノミカ、總會決議ニヨリ政府ニ迫ルニ「一般租稅ヨリ基金ヲ作り、六十歳以上ノ一切ノ人ニ對シ一週五志ノ養老金ヲ給與スベキ」制度ノ採用ヲ以テシ、ゾムバルトラシテ「是レ實ニ純平タル共產主義ナリ」(Das ist reiner „Kommunismus“)ト論ゼシ(註九)メヌ。茲ニ所謂「均

一ノ傾向」(Die Tendenz zur Einheit)ハ遺憾ナク英國ニモ現ハレ、マルクス、ラッサレ以後獨逸職工組合ノ多數ガ社會民主黨ニ屬シテ帝國議會内ニ横行セル如ク、英國職工組合モ自利ノ進歩上政權ニ憧レ千九百年社會主義者ト合シテ先ヅ勞働代表委員會 (Labour Representation Committee) ヲ組織シ三年ヲ經テ是ヲ勞働黨 (Labour Party) ト改稱シ一九〇六年ノ總選舉ニ獨立候補者ヲ立テ、争フヤ、容易ク三十ノ議席ヲ贏チ得他ノ勞働組合ヲ代表セル二十四名ノ議員ト連衡シ、一躍シテ儼然タル第四黨、政界一方ノ雄者ト化セリ。勞働黨ノ中堅タル獨立勞働黨ノ領袖ジヨン、バーンスヲ拔イテ與フルニ地方政務局長ノ椅子ヲ以テスルニ客ナラザリシ自由黨ノ策士即チ惟ヘラク「此ノ第四黨トノ提携ヲ固クシテ他日ノ異變ニ備フルト共ニ、社會政策ノ實行ニ關稅改革ノ聲ヲ蔽フ可シ」ト。勞働者賠償法 (Workmen's Compensation Act) ヲ改正シ、其負

擔ノ増加著シキモノアル可キニ拘ラズ、一切ノ企業家ヲシテ他ノ各國以上ノ廣汎ナル範圍ニ於テ勞働者ノ被リタル企業上ノ災厄ニ付テ賠償ノ責任ヲ負ハシメタル、又六百五十萬磅ヲ算スル新負擔ヲ厭ハズニ養老年金法 (Old Age Pensions Act) ヲ制定シ、昨年一月以來一ケ年ノ收入三十一磅十志ニ達セザル七十歳以上ノ老年者ニシテ英國ノ國籍ヲ有シ二十年來英國内ニ居住セルモノニ一週一志乃至五志ノ給與ヲナセル (註十) 孰レカ是レ其證左ニアラザル。

註八、Werner Sombart, Sozialismus und Soziale Bewegung, 6 te Aufl., Jena, 1908, S. 273

註九、Sdrp. S. 274

註十、年金額ハ受領者ノ收入額ニ應ジテ異ル。

年收	二十一磅以內	每週	五志
同	二十三磅十二志六片以內	同	四志
同	二十六磅五志以內	同	三志
同	二十八磅十七志六片以內	同	二志
同	三十一磅十志以內	同	一志

然アレドモ養老年金制度ノ採用ハ十數年前ヨ

リノ懸案ニ拘リ、其必要ハ普ク認メラレタル處
保守黨ト雖モ異見ヲ存セシニアラズ、唯財政上
多大ノ障礙アリ、實行上諸種ノ困難アリテ其意
ヲ達スル能ハザリシノミ、サレバ自由黨政府ガ
財政ノ餘裕ヲ利シテ同法ヲ發布シ勞働派ノ歡心
ヲ求メ得タルハ黨略ノ巧妙ヲ極メタルモノト賞
讃スルノ外ナキナリ。

然ルニ同法實施ノ結果養老金ノ給與ヲ請求ス
ル者豫想以上ノ多數ニ登リ特ニ愛蘭ノ如キニ在
テハ有資格者十五萬二千人ヲ過グルコト一萬八
千三百六十五人ニ達シ實際ノ支出豫算ヲ超過セ
ルノミナラズ、英獨海軍競争ノ壓迫ニ依テ海軍
費ノ膨大ヲ來スノ徵候歴然タルモノアリシヲ以
テ、英國ノ政客ハ一樣ニ其注意ヲ大藏大臣ロイ
ド、ジョージニ注ギ、クローマー卿ノ如キハ「來
ル可キ豫算ハ自由貿易派財政政策ノ最終試驗ナリ
」ト説キ、一部ノ人々ハ心竊ニ政府ガ關稅引上
ニヨツテ收入ノ増加改革論者ヲ求ム可キヲ豫想

セリ。

畢然、新豫算案編成ニ際シ收入不足ノ豫想額實
ニ一千五百七十六萬二千鎊然モロイド、ジョー
ジハ富源開發補助費勞働紹介所費及ビ地價調査
費ノ三新項目其金額計三十五萬鎊ヲ計上シタル
ヲ以テ收入ノ支出ニ及バザル正ニ一千六百十一
萬二千鎊ノ多キニ登レリ。元來一九〇九年度ニ
至リ俄カニ從前ノ優良ナリ財政狀態ガ煙散霧消
セル原因ハ一般經濟界ノ不振酒精麥酒其他ノ飲
用物ノ消費減少海軍費ノ膨脹ニ依ルコト少カラ
ザレドモ最大ノ原因ハ即チ養老金支出ノ増加ニ
在ルニ關セズ、將來經費ノ膨脹豫想セラル可キ
勞働紹介所ヲ新設シテ失業問題ヲ解決セント
シ又農業林業ノ富源開發ヲ助ケテ失職勞働者ヲ
減少セシメントスルヲ見テハ誰カ又昔日ノ自由
放任主義ノ祖國ガ國家社會主義ニ達スベキ一路
ヲ辿リツ、アル急轉直下ノ勢ニ驚駭ノ感ナキモ
ノゾ、豈是ノミナランヤ斯シテ生ズル一大缺陷

ヲ填補缺センガ爲ニ、先ヅ嘗テ資本家銀行家等ニ慰安ノ資料タリシ公債時價恢復ノ曙光ヲ滅セシコトヲモ恐レズ又當時「コンソル」公債ノ市價末曾有ノ低落ヲ示セシヲモ意トセズ、減債基金三百萬磅ヲ減ゼシヲ初トシ、收税額コソ六十萬磅ニスギザレ、全ク上流社會ノ負擔タル可キ自動車税及ビ自動車用燃料税ヲ新設シタルガ如キ財產税徵收最低限度一萬磅ヲ五千磅ニ低メ且ツ累進税率ヲ採用シタルガ如キ、遺產税相續税ノ税率ヲ引上ゲシガ如キ、財產讓渡證書ニ對スル印紙税十志ヲ倍加シタルガ如キ、勤勞所得以外ノ所得税率一志ヲ一志二片トシ、又五千磅以上ノ所得ニハ三千磅ヲ超過セル殘額ニ對シ一磅ニツキ六片ヲ增課スルコト、セルガ如キ、土地ノ賣買相續ニ際シ十五年ヲ一期トシテ測定セル差增價格ノ二割ヲ徵收セントスルガ如キ、未開地及ビ未開鑛山ニ對シ市價一磅ニツキ半片ノ課税ヲナシ又二十一年以上ノ賃貸借契約滿期ノ際貸

借當時ヨリ増加セル利益ニ對シ一割ヲ徵收セントスルガ如キ、孰レカ是レ富者ニ奪ツテ貧者ニ惠マントスルノ精神ヲ最モ大膽ニ又最モ露骨ニ表ビシタルモノニアラザル。尤モ新豫算案ニ於テハ酒精税、煙草税、酒類販賣免許税、等下流社會ニモ負擔ヲ及ボス可キ税額六百十萬磅ヲ算シ、前記諸税目ヨリ得ベキ八百十萬磅ノ收入ノ略ボ相當ノ比例ヲ保ツノ觀アリト雖モ、煙草酒精ノ二ハ既ニ已ニ課税率甚ダ高クシテ果シテ豫想ノ收入ヲ見ル可キヤ大ニ疑アルニ反シ、上流社會ニ對スルモノハ所得税ト云ヒ、相續税ト云ヒ地租ト云ヒ、皆今後愈々増進シ養老年金額ノ膨脹ニ應ジテ餘裕綽々タルモノアルニ至ル可シロイド、ジョーヂ即チ揚言スラク「余ノ豫算案ハ僅ニ一年ノ計ヲナスニアラズシテ遠ク國家將來ノ計ヲナス豫算ナリ。」ト又曰ク「コレ貧窮ニ對スル根本的大戰ヲ賭スルノ豫算ナリ。」ト然シ乍ラ富者ヲ誅求スル此ノ如ク、資本ノ負擔ヲ

重カラシムル此ノ如クシテ變ゼザラムカ、苟ニ
 恐ル從來内國ニ投下セラレタル内外ノ資本ハ先
 ヲ爭フテ海外ニ流出シ、左ナキダニ荒廢ニ傾ケ
 ル農業ハ日ニ荒廢ノ勢ヲ早メ、然ラズトモ衰頽
 ニ赴ク工業ハ月ニ衰頽ノ度ヲ強メ、勞働ノ需要
 ハ養老年金ノ膨脹ト反比例シテ縮少シ、其所謂
 貧窮ニ對スル根本的大戰ハ實ハ貧民ニ對スル根
 本的大戰タルノ誹ヲ免レザルニ至ランコトヲ。

「富ヲ破壞シテ社會問題ヲ解決スベク、富豪ヲ
 絶滅シテ貧民救済ノ素志達スベク」ハ學者モ無
 用ノミ。政治家モ無用ノミ。何ゾロイド、ジョ
 ージノ手ヲ煩ハサンヤ。

如何ナル國民カ増稅ヲ讚美シ負擔ノ加重ヲ歡
 迎セン。反對ハ増稅ニ伴フ必然ノ產物ナリ、然
 リト雖モ新稅法案ノ通過ニヨル國庫收入ノ累進
 ニ關稅改革案實施ノ期ナキニ至ランノ虞アリシ
 ニ在野黨ハ云ハズモガナ、未ダ嘗テ豫算案反對
 ヲ試ミシコトナキ倫敦ノ有力ナル銀行家商業家

ガ特ニ集合シテ「這般ノ稅法ハ商工業ノ進歩ヲ
 阻害シ、企業的精神ト貯蓄心トヲ滅殺シ、勞働需
 要ノ減少ト賃銀ノ下落トヲ招致スベシ」ト抗議
 シ、又前自由黨内閣總理大臣ローズベリー卿ガ
 徹頭徹尾新豫算案ヲ攻撃シテ完膚ナカラシメ其
 極「モシ夫レアスキスノ云フガ如クコレ關稅改
 革ニ代ル可キ唯一ノ提案ナリトセンカ、多數ノ
 人民ハ悲哀ト嫌惡トヲ押シテ復自由貿易制度ニ
 謳歌スルコトナカル可シ、トナセル強烈ナル反
 對ヲ以テ増稅ニ伴フ產物ノミト輕視セントスル
 モノアランニハ、吾人ハ徐ロニ其淺見ト大膽ト
 ニ驚カザルヲ得ズ。何ヲ以テカ爾云フ。乞フ聊
 カ地價差増稅ニ付テ述ブル所アラン、地價差増
 稅ハ其紀元コソ極メテ新シクシテ僅ニ市町村就
 中市ノ租稅トシテ行ハル、ニスギザレ、賦課法
 ニシテ機宜ニ適スル以上、租稅負擔ノ分配ヲ公
 平ナラシムルノ一助タリ、財政困難ヲ救済スル
 ノ一法タル可キハ學者ノ承認スル處(註十二)從テ

新財源ヲ漁ルニ急ナルロイド、ジョージ氏ガ列國ニ先ンジテ之ヲ採用セントセルハ冷カナル純理ノ上ヨリ見テ必シモ異トスルニ足ラズ。然リ必シモ異トスルニ足ラズト雖モ、當ニ一八九四年グラツドストーンノ任命セル國立委員會ガ英國ノ地價ハ全體トシテ著シク低減セルヲ報ゼルノミカ、(註十二)現ニ一八七九年六千萬磅ヲ算セシ英蘭、蘇格蘭及ビウェールスノ土地所得額ガ一九〇七年ニ於テ四千二百五十萬磅ニ減ジ、(註十三)タルニ際シ何等是ガ恢復ヲ促スベキ政策ヲモ畫セズシテ恣ニ農業衰微ノ嘆聲ヲ繁カラシメ乍ラ、一旦辛ウジテ高騰ヲ生ゼラアラバ直ニ其二割ヲ奪ハントスルガ如キ果シテ是レ批難ノ餘地ナキ政策ヲ以テ許スベキカ。或ハ曰ク「地價ノ差増ハ地主勤勞ノ致ス所ニアラズシテ座ナガラ收ムル社會的產物ノミ、宜ク取テ國庫ニ收メテ可ナリ」ト。何ゾ夫レ然ラム。社會的產物ナルガ爲ニ奪フ可クンバ豈ローズベリー卿ノ引用セ

ル「コンソル」ノ利子ト限リ、鐵道株ノ配當ト限ランヤ。地代ト云ハズ、賃銀ト云ハズ、將利潤ト云ハズ、交通經濟時代ノ今日何ノ所得カ社會的產物タルノ色彩ヲ脱センヤ。(註十四)斯クシテ一切ノ財產ヲ一切差増稅ノ下ニ羅致センカ、英國ノ財政ハ永ク永ク歲入不足ノ不幸ナカラン然モ時ニ當ツテ英國々民經濟ノ呈スベキ狀勢如何ハ智者ヲ俟テ初メテ知ル可キニハアラザルナリ。翻テ吾人ガ此ノ如キ想像ヲ敢テスルハ自ラ亦理由ノ存スルアリ。一九〇六年十月既ニ「土地國有ハ成就セザル可ラズ、然レドモ其ハ平易ナル手段ニ依テ成就セザル可ラズ」ト。論ゼルロイド、ジョージハ昨年十月三十一日ニ於テ差増稅徵收ノ爲ニ行ハル可キ新評價ヲ標準トシテ市ハ宜ク其發展ニ緊要ナル土地ヲ買上グ可ク、國家亦英國農業再興ニ必要ナル土地ヲ買收ス可キナリ。

ト宣言シ、閣員ノ一人ユーア氏ハ

此ノ中庸ヲ得タル二割ノ地租ハ合法確實、更ニ遠大ナル效果ヲ伴フ可キ主義ヲ包含ス。土地ハ之ニ加ヘラレタル改良

ナ除キ總テ國家ニ屬スト云フ即チ是レ也。

ト公言スルヲ憚ラズ、労働黨首領ケーヤ、ハー
デー(Kear Hardie)モ亦

差増地價ノ十割ヲ得ント欲スル社會主義者ガ僅ニ二割ヲ得
ントスル豫算案ニ賛成セルハ決シテ其ヲ正當ナル徵稅法ナ
リト信ズルガ爲ニアラズシテ終極ノ目的ニ達スベキ第一歩
タルガ故ノミ

ト斷言セリ。立案者此ノ抱負ニ基イテ提案シ、
閣員此ノ主張ヲ持シテ賛成シ、與黨此ノ目的ヲ
抱イテ協賛ス。實施ノ第一年實收入五十萬磅ニ
對シテ早く先ヅ五萬磅ヲ調査費ヲ要シ爾後ノ徵
稅費亦頗ル多大ナル可キヲモ意ニ介セズ、斷乎
トシテ二割ノ高率ヲ課スルト同時ニ相續稅率印
紙稅率ノ引上ゲニ土地ノ私人間移轉ヲ甚シク因
難ナラシメタルロイド、ジョージ氏ノ眞意ハ茲
ニ至ツテ釋然トシテ解ス可キニアラズヤ。自己
ノ政策ヲ擁護シ反對黨ヲ攻撃セムガ爲メニ殊更
ニ誇張ノ言ヲナス保守黨ノ聲ニ驚カサレテサモ
大革命的思想ノ自由黨内閣ニ依リテ實現セラレ

我が同盟國ノ基礎之ガ爲メニ動搖セントスナン
ゾト周章狼狽スルガ如キハ吾人ノ與セザル所ナ
リ」ト論ジテ意氣軒昂タリシ論者(註十五)ハ果シ
テ、前日從來外國製造家ト許サレタル英國特許
品海外製造ノ恩典ヲ襍奪シ一舉手ノ勞流入資本
二千五百萬磅、就職勞動者數千ナラシム可キ特
許法案改正テフ醜キ保護ノ實ヲ蔽フニ「實ハ是
レ内外製造家ヲ均一ノ地位ニ立タシムルノミ」
テフ美キ平等ノ名ヲ以テスルノ大膽アリ。今日
非常準備金タラシメムトセシ當初ノ趣旨ヲ沒却
スルノミナラズ、資本増殖利用ノ氣運ヲ阻礙ス
可キ危惧アル所謂稅率相續稅率ノ引上ヲ單ニ是
レ既成財政策ノ延長ノミト説明スルノ勇氣アル
現藏相ガ其閣員ノ援助ト其與黨ノ德憑トニ二割
ヲ改メテ四割トナシ、四割ヲ改メテ八割トシ十
割トナシ「單ニ是レ延長ノミ」トナスナキヲ保
シ得ベシトスルカ。二十世紀ノ英國ハ佛蘭西革
命ヲ許サズ。然アレ財政缺陷補填ヲ假ツテ口實

トシ、平和ノ間、談笑ノ裡着々土地國有テフ大革命ヲ完成シ、權力ヲ以テ強制スレバ生ズベキ未曾有ノ紛擾ヲ避ケ、金力ヲ以テ買収スレバ來ル可キ公債ノ膨脹ヲ防ガントスル遠謀大圖ハ社會的立法ノ衣ヲ纏フテ出現セルニアラズヤ。ローズベリー卿即チ曰ク「是レ豫算ニ非ズシテ革命ナリ」ト。一葉落ツレバ天下ノ秋自ラ知ル可ク、三寸ノ積雪除キ去レバ其下生々タル春草アラシ、之ヲ是レ覺ル能ハズシテ「多額ノ所得ニ對シテ稍々高キ課稅ヲ爲シ又土地ノ自然増價ニ課稅スルガ如キハ何等怪ム可キモノニ非ズ非難スベキモノニ非ズ」テフ、一片ノ理論ニ支配サレ「曩日ノ自由黨今ヤ化シテ自由社會黨タルニ至レ」(註十六)ル形勢ノ變化ヲ看過スルコソ却テ「吾人ノ與セザル所ナリ」。

夫レ「勞働者ノ要求スル所ハ正ニ安固ナル事業ニアリ。外ニ向ツテハ英國製品ノ販路ヲ擴張シ、内ニ在ツテハ英國工業ノ基礎ヲ鞏固ニシ、

英國資本ノ内地放下ニ依テ英國勞働者ニ職業ヲ與フ可キ財政案ニアリ」(註十七)而テ是レ即チ特惠關稅政策ニアラズシテ何ゾヤ。固ヨリ特惠關稅ノ生命タル穀物關稅ノ賦課ハ依テ以テ永久多大ノ收入ヲ豫期スベキニアラズ、從テ財政上焦眉ノ急ニ應ジ得ベキニアラズト雖モ、一度穀物關稅ヲ制定スルヤ其完全ヲ期シ其齊整ヲ圖ルノ手段トシテ必ズヤ工業關稅ヲ採用スルヲ必要トシ、然ラズンバ穀物關稅案ノ制定ハ實際上不能ニシテ政治上實行難ナルコトハシユルツエ、ゲーヴアニッツノ論ズル所(註十八)一九〇八年ニ於テモ一億四千三百萬磅ニ達シ且ツ其大部分ハ內國ニ同種生産者アル輸入工業品(註十九)ニ一割内外ノ關稅ヲ賦課センニハ一面輸入半減ストモ尙ホ七百萬磅ノ收入ヲ得テ歲入ノ不足ヲ補フ可ク、他面内地工業品產額増加額七千五百萬磅ト概算シ内三分ノ二勞銀タルモノト假定スレバ優ニ百萬人ノ勞働者ヲ養フテ失職貧窮ノ勞働者ヲ

減ズ可シ、社會主義的租稅ヲ徵收シ、社會主義的豫算ヲ編成スル必要果シテ那邊ニカ存スル、保守黨ノ憤起茲ニ於テカ起ル。

註十一、瀧本美夫氏財政學講義上卷三六九—三七〇頁

註十二、Nineteenth Century & after, 1909, Nov. "Art. "

The Finance Bill" by Avebury.

註十三、ローズベリー卿ノ演說ヨリ拔ク

註十四、津村教授國民經濟學原論下卷一地代論中土地單稅

論參照

註十五、國民經濟雜誌第八卷第二號河田學士「關稅政策カ

社會政策カ」五五頁參照

註十六、Nineteenth Century & After, 1908, Dec. Art. "Unionist or Socialist Land Reform" by J. E. Barker.

註十七、一九〇九年九月二十二日バルフォアノ演說

註十八、Schulze Gaevernitz, a. a. O., S. 242.

註十九、一九〇八年ニ於ケル製造品輸入ノ種類及ビ價額左

ノ如シ。

鐵及鋼及同製品

七、六八〇

他ノ金屬及ビ其製品

二四、六七五

刃物、金屬具、器具類

三、七五〇

電氣實物及ビ電氣器具

一、二六四

機械

四、五五七

船舶

一八

羊毛及ビ材木製品

一、九七一

綿糸及ビ綿織物

九、四七六

羊毛及ビ毛織物

九、五〇〇

其他ノ纖維及ビ織物

一八、九三九

衣服

四、二〇一

藥品及ビ染料類

一〇、二〇〇

皮革及ビ同製品

一、五六二

陶磁器及ビ硝子

三、六八五

紙

五、八〇〇

雜品

二五、八四六

合計

一四三、一二四

(Stateman's Year Book, 1909).

保守黨ハ蹶起セリ。勝敗ノ決戦ハズシテ知ル可キアルヲ意トセズシテ彼等ハ豫算案ヲ批駁セリ。論戰又論戰死力ヲ盡シテ奮闘シタレドモ寡ハ遂ニ衆ニ敵ス可カラズ。多少ノ修正ヲ加ヘシメ得タルノミニテ十一月四日豫算ハ百四十九ニ對スル三百七十九即チ二百三十ノ大多數ヲ以テ

第三議會ヲ通過シ翌五日上院ニ廻送セラル、ニ至リス。

此際豫算修正權ヲ失フコト久シク、否決權ヲ行ハザルコト永キ上院ノ探ル可キ行動ヤ如何トハ自ラ生ズ可キ疑問、チャンバレーンハ九月下旬早ク既ニバーミンガム市民ニ與ヘタル書ニ於テ上院ガ之ヲ否決シテ總選舉ヲ行フノ止ムナキニ至ラシメンコトヲ希望セリト雖モ、豫算案攻撃ニ力ヲ餘サバリシ「タイムズ」記者及ビローズベリー卿ノ如キサヘ之ニ和スルヲ躊躇シ、カノ「スペクテーター」ノ如キモ「否決ハ徒ニ自由黨ノ術中ニ陷ル可キモノナリ」ト論ジ其自ラ財政權ヲ掌握セントスルニアラズ。地主又ハ保守黨ノ私利ヲ計ラントスルニモアラズ、輿論ヲ尊重シ民權ヲ保護セントスルノ意思ナルコトヲ明ニセンガ爲メニ爭點タリシ部分ノミハ直接國民ノ同意ヲ得ル迄實施ス可カラズトノ條件ヲ附シテ通過セシム可キ旨ヲ勸奨セリ。然ルニ地主タリ

富豪タル自己ノ利益ヲ保護スルノ必要ニ迫ラレ且大勢ノ歸趨、今ニシテ帝國主義關稅改革ノ旗幟ヲ翻シ乾坤一擲ノ大戰ヲ賭センノ有利ナルヲ確信セル上院ハ惹テ三千七百五十萬磅乃至五百三十萬磅ノ缺損ヲ釀ス可キ虞アル(註廿二)ヲ顧慮セズ、一八六〇年紙稅廢止案以來財政案ニ容喙セザリシ儼然タル先例ヲ打破シ、十二月一日斷乎トシテ七十五票ニ對スル三百五十票ヲ以テランズダウン卿ノ提出セル「國民ノ判斷ニ問ハル、迄之ガ通過ヲ拒絕セム」トノ動議ヲ可決シ了レリ。一度教育法案ニ於テ、二度酒場法案ニ於テ自家素志ノ貫徹ヲ否認セラレ其暴橫ヲ憤ル甚シカリシ自由黨ハ機逸ス可カラズトシウイストン、チャーチル、ロイド、デョージノ如キ過激派ハ上院須ク廢止スベシト叫ビ、アスキス、ハルデーノ如キ穩和派ハ上院ノ權力宜ク制限スベシト論ジ、民衆權利蹂躪ノ一句ニ非上院の氣風ヲ排發シ以テ自黨ノ利益ノ爲ニ英國憲法ヲ顛

覆セシメント企テタリ。(註廿一)適法ト不法トヲ問フヲ止メヨ。否決ハ昭々トシテ否決ナリ。骸子正ニ投ゼラル。次テ來ル可キモノハ曰ク解散ナリ。而テ曰ク總選舉ナリ。

論ジテ茲ニ至ラハ兩者ノ爭點ハ一見甚ダ複雑錯綜シテ然モ其實極メテ簡單明白ナリ。曰ク社會主義カ將帝國主義カ即チ是レナリ。一ハ社會主義ヲ奉ズルガ爲ニ富者ニ取ツテ貧者ニ與ヘムトシテ地稅増徴ヲ企テ他ハ帝國主義ヲ信ズルガ爲ニ富者貧者竝ビ保護セムトシテ關稅改革ヲ希ヒ、一ハ社會主義實現ノ障害タルガ故ニ、上院ノ廢止又ハ權力制限ヲ主張シ他ハ帝國主義遂行ノ援助タルガ故ニ、二院制度ノ美點ヲ高調シ、一ハ自家主張ノ貫徹ニ急ニシテ愛蘭黨トノ聯結ヲ固クセンガ爲ニ愛蘭自治法案提出ヲ許シ、他ハ大英帝國建設ニ憧憬シテ此ノ如キハ英帝國ヲ分裂セシメムトスルモノナリト難ジ、一ハ養老年金ヲ先ニシテ軍備擴張ヲ後ニシ他ハ軍備ノ充

實ヲ重ジテ養老年金ヲ輕ンジ、一ハ勞働者ヲ見テ資本家ヲ顧ミズ、他ハ資本家ノ利益ヲ増進シテ而テ勞働者ニ及バント欲ス、極言スベクンハ是レ正ニ第三階級(Die Bourgeoisie)ト第四階級(Das Proletariat)トノ階級戰爭(Klassenkampf)ナリ。而テ沈着ニシテ冷靜ナル英國ノ民衆ハ果シテ前者ニ與セントスルカ、抑又後者ニ贊セントスルカ、本年一月十五日以後施行セラレタル總選舉ハ此大問題ノ答解ヲ以テ目スベキ者、而テ其結果ハ正ニ左表ノ示スガ如ク、(註廿二)統一黨ハ一舉能ク百餘ノ議席ヲ蠶食シ自由黨ノ壘ヲ摩シテ及バザル事僅ニ一名尙ホ以テ下院ノ多數ヲ制スルヲ得ズト雖モ、又未ダ一九〇六年自由黨ノ博セル大捷ニ比ス可カラズト雖モ、自由勞働兩黨ノ顯著ナル減少ト對照スル處吾人ヲシテ是レ春風秋雨四度ノ間漸ク世界大ノ帝國ノ光榮ヲ思ヒ、地表ニ普キ領土ノ統一ヲ欲スルニ至リシ「ヂヨンブル」ガ驟然自由貿易ノ傳說的信仰ヲ抛

九日倫敦發電

註二十二 四十二年一月二十二日大阪毎日二面所載二十一
日倫敦電報

註二十三

解散前	總選舉	比較
統一黨	一六八	二七三
自由黨	三六五	二七四
勞動黨	五四	四一
國民黨	八三	八二
		減一
		減一三
		增一〇五

ツテ關稅改革ノ現代的福音ヲ聽キ、社會主義ヲ捨テ、帝國主義ヲ擇ブノ決心ヲ示セル表徴タルヲ感ゼシメズンバアラザルナリ。況ンヤ、西電或ハバルフォア氏ニシテ最近ノ四ヶ月ニ於ケルガ如キ熱心ヲ以テ過去四年間連續關稅改革論ヲ鼓吹シタラムニハ總選舉ノ結果ニ變化ヲ見タリシナラムト察シ、或ハ統一黨ニシテ關稅改革案ヲ唯一ノ政綱トナシタリシナラムニハ確ニ勝利ヲ占メシナラムト推スルニ於テオヤ、(註廿三)滿四年近世無比ノ大多數ヲ下院ニ占メグラッドストンノ全盛時代ニモ優レル自由黨ノ榮華悠忽トシテ茲ニ至ル。一敗地ニ塗レタル曉尙ホ且ツ勅語奉答案議事ニ際シ在野黨ノ氣ヲ吐イテ「雄大ナル多數ハ永ク繼續セシ例アルナシ」ト傲語シタルノ雄心落々消ス可カラザルチエムバーレン蓋シ先見ノ明アルニ誇リ得ベケムナリ。

註二十 Nov. 12, 1909, The Economist, p. 973.

註二十一 カーン卿ノ評(本年一月十日大阪毎日第二面

形勢茲ニ至ツテ自由黨內閣ノ根底ハ動搖セザルヲ得ズ、ヨシ內閣大臣ハ皆再選セラレ、下院場裡在野黨ヲ壓スト雖モ、第三黨ノ向背ハ瞬時ニシテ大勢ヲ變ジ兩派ノ死活ヲ定ム可シ。評アリ曰ク、「國民黨首領レツドモンドハ無冠ノ帝王ナリ」ト。眞ナル哉。

ダブリンニ國民議會ヲ設ケテ立法上ノ獨立ヲ完成シ、其英蘭ニ對スルコト匈牙利ノ奧太利ニ於ケルガ如カラントスルハ愛蘭人四百五十萬年來ノ宿望タリ。彼等ハ之ガ爲ニハ英國品ニ「ボイコット」ヲ行ヒタリ。軍務ニ服スルヲ拒絶セリ

バーネルハ之ガ爲ニ窮死シ、自由黨ハ之ガ爲ニ衰微セリ、然モ尙ホ内ヲ見レバ人口乏シク國力貧シク到底匈牙利ノ傲然以テ塊ニ對スルノ勢力ヲ望ミ難ク、外ヲ眺ムレバサドワノ一戰塊ヲシテ匈牙利ノ自立ヲ約セシメシ獨逸ノ如ク、義俠ノ一念、十三州ヲ助ケテ獨立ヲ遂ゲシメタル佛蘭西ノ如ク、英ヲ強イテ獨立ヲ約セシムベキ強固ナル、素志ヲ達スルニ難キヲ見ルヤ、或ハ國粹保存國語維持ヲ目的トシテ「ゲーリツク、リグ」ヲ組織シ「ゲーリツク語」ハ吾人ノ古英雄ノ國語ニシテ英語ハ吾人ノ壓制者ノ用ユル處ナリ、ト云ヒ英語ガ「サクソン」人ノ國語ナルガ如ク「ゲーリツク」語ハ愛蘭人ノ國語ナリ」ト云フガ如キ激越ノ言ヲ弄シ、米國在住愛蘭人ノ保護ヲ受ケ、内國同胞ノ同情ヲ集メ、創設以來僅ニ二十年全島小學校ノ三分ノ一以上ヲシテ英語ノ外特ニ「ゲーリツク」語ヲ教授セシメ、全島ニ亘ツテ六百ノ支局ヲ設置シテ其勢力侮ル可カラザ

ルヲ示シ、或ハ農業ノ振興ニ民力ノ涵養ヲ期シ共同的氣風ノ養成ニ民族的精神ノ保持ヲ望マントシテ、愛蘭土農制協會ヲ建テ、農民組合ノ獎勵ニ努メ既ニ三百ノ組合ト三萬ノ組合員トヲ擁シ、將來ノ勢力恐ル可キモノアルニ至ラシムル等百方手段ヲ講ズルニ汲々タリ。サレバ今若シ自治案容認ヲ餌トシテ之ヲ釣ランカ、八十ノ國民黨忽チ旗下ニ參ジテ盲從ヲ甘受セム、アスキス心竊ニ思ヘラク「愛蘭黨ヲ羅致シテ豫算案ヲ通過セシメ、自治案ニ先ツテ上院否決權制限案ヲ提出シ、自治ノ一矢二兔ヲ捕フル亦可ナラズヤ」ト。即チレツドモンドニ曰ク「我ニ從ヘ然ラバグラツドストンノ遺案ヲ提出セム」ト。默契ハ成立セリ。議會ハ解散シ總選舉ハ施行セラレ而テ兩者ノ關係依然トシテ舊ノ如シ。商務局長ウチンストン、チャーチル誇テ曰ク政府ハ「百二十票ノ多數ヲ贏チ得タリ、全國ノ信任ハ政府ニ深シ」ト(註二十四)然リ右手勞働黨ト結び、左

手愛蘭黨ト連ル、以テ百二十四票ノ多數ヲ得ム
但有識ノ士ハ評シテ「自由黨員ノ如キハ寧ロ自
黨將來ノ勢力ニ重キヲ置キ全國民ノ利益ヲ輕視
スルモノナリ」トナス(註二十五)恐ラクハ辯辭ナ
カラム。

翻テ思フ、一時兩馬ニ跨ルハ策頗ル巧妙ナリ。
然モ亦甚シク危險ナリ。

勞働黨領袖ケーア、ハーヂーハ今コソ「如何
ナル方針ヲ採用セラル、トモ、政府ヲ援助スベ
シ」トテ大同俱樂部モ三舍ヲ避ケムノ旨從テ言
明スレ其舌根未ダ前日アスキスノ對上院策ヲ嘲
笑シ公然自由黨ニ信賴セズ不羈獨立ノ行動ニ出
ヅ可キ宣言ニ威嚇ヲ試ミシ(註二十六)跡アラム。
生活勞働及ビ職業獨占ノ三權利ノ上ニ社會主義
國家ヲ建設センコトヲ運動ノ標トスル勞働派
ハ區々タル養老年金法ヲ以テ満足シ隱和ナル社
會的立法ヲ以テ鼓腹スベキニアラズ、要求又要
求自由黨ノ弱點ニ乗ジテ恣ニ其理想ノ實現ヲ督

促センニハ政府果シテ是ヲ容レ得ベキカ。抑又
英國民是ヲ忍ビ得ベキカ。

愛蘭黨ニ至テハ僅ニ自治權獲得ノ手段トシテ
政府ト結ベルモノ、豫算案ニ贊成シ、上院否決
權廢止ニ協賛スル意一ニ茲ニ存スルノミ。サレ
ハ閣議一度新議會劈頭第一昨年豫算案ヲ提出セ
ムト決スルヤ、忿然トシテ先ヅ上院權力制限案
ヲ附議スルニ非ズンハ斷ジテ贊成セジト怒號シ
後漸クアスキスノ慰撫ニ依テ現政府ニ反對投票
ヲ試ミントスル企畫ヲ改メタリト傳ヘラル、モ
(註二十七)將來ノ嚮背去就俄カニ逆知スベカラザ
ルモノ在テ存ス。上院權力制限案通過スベカラ
ザルコト明カナランノ日彼等尙ホ能ク豫算案通
過ノ具タルニ止ル走狗ノ用ヲ果シテ心平カナル
ベキカ、無冠ノ帝王ハ八十二票ヲ提ゲテハルフ
オーアニ至リ一條ノ活路ヲ求ムルガ如キコトナ
カルベキカ。

再ビ下院ヲ通過シテ回送セラル可キ豫算ニ對

シニ院制度ノ本領ヲ發揮セントシテ上院再ビ是ヲ否決スレバ其結果ハ如何。次デ提出セラルベキ否決權廢止案ニ對シ自ラ告朔ノ餼羊トナルヲ肯ンゼズシテ反對スレバ其影響ハ如何。吾人ハ茲ニ無用ノ推測ヲ下サズ、唯刮目シテ讀者ト共ニ自由黨内閣ノ運命ヲ見テ經濟の大英帝國主義ノ將來ヲ察セム。

註二十四 四十三年一月二十九日大阪毎日二面二十八日倫敦發電

註二十五 四十二年十二月三日東京朝日二面「タイムス」特電

註二十六 四十三年二月十六日及ビ十二日大阪毎日二面十四日及ビ十一日倫敦發電

註二十七 四十三年二月十四日十五日大阪毎日第一面第二面二十二日十三日及ビ十四日倫敦發電

結 論

靜ニ十九世紀ノ歴史ヲ緝イテ其間歐洲外交ノ中心トシテ列強ヲ支配セシモノヲ尋スレバ前後三ヲ數フ可シ。維納其一ナリ。巴里其二ナリ。

而シテ伯林其三ナリ。

維納ヨリ巴里ニ、巴里ヨリ伯林ニト明星頻リニ廻グレドモ一衣帶水ノ倫敦ニ至テハ毫モ之ニ與カラズ。固ヨリ財力足ラザルニアラズ。兵力強カラザルニアラズ。否、トラフアルガーアリ、ウオータールーアリ。宇内ニ跨ル大領土アリ、盛榮比ナキ産業アリ、世界ニ君臨スベキ大帝國トシテノ實力ニ至テハ人モ許シ我モ任ジナガラ尙ホ且ツ百年一日ノ如ク孤立ノ地位ニ忍ンデ外交圈ノ外ニ立ツ。誇ルモノアリ。曰ク「是レ光榮アル孤立ノミ」ト果シテ是レ光榮アル孤立カ將又光榮ナキ孤立カ、夫ハ論者ノ擇ブ所ニ任ス而テ吾人ハ唯云フ、所謂光榮アル孤立モ自ラ望ミタルノ孤立ニアラズシテ、實ハ時ノ勢止ムヲ得ザリシノ孤立ナルコトヲ。

然ルニ今ヤ果シテ如何、極東ノ一端日本アリ太西洋ノ彼岸合衆國アリ。歴史の怨恨消ス可カラザル佛蘭西手ヲ握ツテドーバーノ波靜ケリ犬

猿相容レザリシ露國亦和シテ印度憂フルヲ要セズ、西班牙親ミ、伊太利睦ミ、土耳其頼ツテ地中海上他人ノ橫行ヲ許サズ。斯ノ如クニシテ倫敦ハ自ラ化シテ二十世紀ノ劈頭ニ於ケル世界外交ノ中心トナリ、霸者ノ冠ハ求メザルニ英國ノ頭上ニ宿レリ。(註一)

註一 露國諸新聞ハ過去一年間ノ事件ヲ評論シ、英國ノ外交政策ガ光彩アル成功ヲ見タルヲ記シ、倫敦ハ今や歐洲政治ノ中心トナルニ至レリ。之亦露國ノ利益ナリト言明セリ。(四十二年一月十五日登「タイムズ」特電十六日大阪朝日第二面所載)

而テ今事ノ茲ニ至リシ所以ヲ考フルニ決シテ單ニ現エドワード七世陛下ヲ初メトシテグレイトランスタウン等ノ賢君名相相次デ出デタルニヨルニアラズ、實ニ英國ノ政治的經濟的勢力ノ發現セル結果ノミ。サレバ若シ英國ニシテ永ク此ノ盛榮ノ地歩ヲ失ハザラムト欲スレバ必ズ先ヅ其二強標準ヲ維持セザル可カラズ。二強標準ヲ維持セント欲スレバ鞏固ナル財政ヲ要シ、而

テ農業ノ衰滅セル英國ガ其財政ヲシテ鞏固ナラシメント欲スレバ其工業ノ發展ヲ期セザル可カラズ。

然ルニ上來吾人ガ縷述セル所ニシテ太過ナカラシメンカ、英國ノ工業ハ既ニ前日ノ世界獨歩ノ優位ヲ失ヒツ、アルモノ、現狀ノ推移ニ委シテ顧ミザレバ早晚二強標準ハ愚カ一強標準ヲダモ確守シ難キニ至ランノ虞アリ。

幸ナル哉。英國ノ殖民地ハ天下ニ散在シテ將來ノ發展測ル可カラザルモノアリ。此ノ子國ヲ誘フテ母國ト連衣、政治的ニ又經濟的ニ協同一致センカ、尙ホ長ク永ク雄邦ノ間ニ伍シテ其繁榮ヲ樂ム可シ。是レゾ即チジエツセツトガ膨脹ノ必要ハ過去ニ於テ大ナリキ。然モ今日ニ於ケル結合ノ必要ハ更ニ大ナリ」ト叫ビ(註二) 喜望峰殖民地新聞「アルガス」(Argos)ガ「英帝國內殖民地ノ占ムル地位ヲ認識シタル第一ノ政治家ハチュムバレーンナリ」ト贊シ(註三) 又エジプト

ン氏ガ其著(英國殖民政策史論)ニ於テ「大英帝國ノ時代ヨリ見レバ其以前ノ諸時代ハ皆是レ單ニ準備ノ時代ヲ以テ目シテ可ナリ」ト斷ズル(註四)理由ニ外ナラズ。

註一 Jasset, The Bond of Empire, London, 1902, p. 155.

註二 Times Weekly, Oct. 9, 1903, p. 652.

註四 H. E. Egerton, a Short History of British Colonial Policy, London, 1897, P. 451.

現實派乎理想派乎、ベンサム乎カーライル乎リカードー乎ラスキン乎、マンチエスター主義乎將帝國主義乎」是レ誠ニシユルツエゲヴァーニツツノ喝破セルガ如ク、十九世紀ニ於ケル英國民ノ政治的經濟的思想ノ動搖セシ對句タリ。

(註五) 動搖又動搖而テ結局英國民ハ理想派ヲ捨テ、現實派ヲ採リ、カーライルニ背イテベンサムニ從ヒ、ラスキンヲ去ツテリカードーニ來リ今ヤ「英國文明ノ最新最高ノ成果タルマンチエスター主義」(註六)ヲモ抛テ帝國主義ニ隨喜セリ

夫レ集權ノ趨勢世界ヲ風靡シテ大ハ益々大トナリ、強ハ愈々強トナル。苟モ活眼アツテ此ノ潮流ヲ見ルモノ、誰カ又「今日ニ於テ北米合衆國或ハ加奈陀ニ分レテ州トナリ、伊太利ノ分レテ市府トナリ、獨逸ノ分レテ王國侯國及ビ公國ト化スルヲ望マンヤ」(註七)既ニ然リ。此ノ際ニ處シテ英國將來ノ發展ヲ期セムト欲セバ唯一路アルノミ。何ゾヤ。大英帝國ノ建設即チ是レナリ。其間ノ防禦共同ノ生存即チ是レナリ。

機ハ熟シテ「種子ハ早くモ播カレタリ」共同防禦ハ遠カラズシテ完成サレントシ、其間生存ノ實行亦近キニアラムトス。豈之ノミナランヤ、一九〇七年ノ殖民地會議ハ初メテ印度首相ヲ參列セシメテ眞ニ名實叶ヒシ大英帝國會議トナリシノミナラズ、滿場一致ヲ以テ今後四ケ年毎ニ一回同會議ヲ開ク可キコトヲ決シ、更ニ進ンデ會議常設機關ヲ設ケ大英帝國全體ノ利害ニ關スル問題ヲ研究シ、國防及ビ航海補助問題ヲ處理

セシムベキコトヲ議決シ、政府ハ同會議ノ希望ヲ容レタル殖民省官制改革ニ際シ此ノ決議ノ趣意ヲ重ンジテ殖民省ヲ自治殖民地局王領殖民地局及ビ王領殖民地及ビ屬領地局ニ三分シ殖民地會議ノ常任書記部ヲシテ第一局ニ附屬セシメタリ。是レ正ニ久シク其必要ヲ叫バレ然モ遂ニ成ル能ハザリシ帝國議院ノ前身タルト同時ニジオフレー、ドレージノ所謂「同一法律同一國族同一君主ノ下ニ於ケル獨立自治ノ自由國民ガ遂ニ協同一致スルニ依テ初メテ置カル可キ統一帝國ノ礎石」(註八)タル可キモノニ非ズシテ何ゾヤ史ニ徴スルニフランクフルト聯邦會議ハ獨逸關稅同盟ヲ生ミ、獨逸關稅同盟ハ獨逸帝國ヲ生メリ。今ヤ英國ノフランクフルト會議既ニ成レリ、知ラズ、何ノ日ニカ、大英關稅同盟ノ成立ヲ見、又大英帝國ノ建設ヲ見ム。

註五及註六 Schulz Gaevernit, a. a. O., S. 69.

註七 Geo. R. Parkin, Imperial Federation, The Problem of

National Unity, London, 1892, Preface p. VII.

註八 四十年五月十四日發行「日本及日本人」第四五九號所

載小山東助氏「全英帝國ノ統一」十八頁ヨリ轉用

本論ヲ綴ルニ際シ東京高等商業學校專攻部貿易科主任
關謙帥ヨリ受ケタル有益ナル指導ニ對シ深ク感謝ノ意

ヲ表ス(完結)